

(様式 1)

令和 7 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第一寺島小学校
校長名	高橋 誠人

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<p>【学校全体的な傾向】</p> <ul style="list-style-type: none">・学年ごとの学力差は多少見られるものの、学校全体としてみると、ほとんど全国の平均を上回っている。 <p>【観点別の傾向】</p> <ul style="list-style-type: none">・知識・技能と思考・判断・表現を比べると、思考・判断・表現の方が高い数値を示している。 <p>【学年別の傾向】</p> <ul style="list-style-type: none">・全学年を通して学力差はあるものの、概ね安定して全国の平均より高い傾向にある。 <p>【教科別の傾向】</p> <ul style="list-style-type: none">・国語、社会、算数で全国の平均より高い傾向にある。特に国語では、全ての学年の全ての領域で全国の平均を上回る数値となっている。	<p>【学校全体的な傾向】</p> <ul style="list-style-type: none">・全学年で、ほぼ全ての学年・教科・観点において全国平均を上回っている。一部平均を下回るところがあるので、重点を決めて授業を行うことが課題である。 <p>【観点別の傾向】</p> <ul style="list-style-type: none">・学校全体として観点別に調査結果を見た限り、特に低い数値は見られない。・知識・技能について、単なる詰め込みによる獲得ではなく、生きて働く知識・技能にする必要がある。 <p>【学年別の傾向】</p> <ul style="list-style-type: none">・校内で比較をすると、第 3 学年の学力が若干低い傾向にある。 <p>【教科別の傾向】</p> <ul style="list-style-type: none">・調査を行った 5 教科の中では、校内で比較すると理科が低い傾向にある。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全体的に見ると、全国の平均を上回っている項目が多い。・標準スコアが高い学級は、部分的に高いわけではなく、集団として全体的に高い傾向がある。	<ul style="list-style-type: none">・学級によって大きく差が開いている結果となったが、高学年になるほど、数値が低くなっている傾向がある。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<p>【全国学力・学習状況調査より】</p> <ul style="list-style-type: none">・国語・算数・理科とも全国の平均正答率を 10% 程度上回る結果となった。・思考・判断・表現や記述を伴う設問に対する正答率が他の設問と比較して高い。	<ul style="list-style-type: none">・令和 9 年の CBT 化に伴い、端末の中で情報と情報を比較したり、考えを再構成したりする思考過程に慣れる必要がある。・メクビットの問題に触れ、ICT リテラシーを獲得する必要がある。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 校内研究を軸とした授業改善

令和7年度、本校の研究主題は、「学びを深める児童の育成」であり、副主題として「～自分の思いや考えを伝え合う活動の充実を通して～」と位置付けた。研究教科は国語科とし、1年生から6年生まで各学年で研究授業を1本ずつ行い、分科会での検討会だけでなく、全体での授業検討会の機会を設けた。また、学力向上に向けて、当該単位ではどの指導事項を育成することが目的となっているのかを、全員で確認し、その手立てとしての言語活動が有効だったのかを検討する。さらに、校内で行う各種研修会を活用し、指導法の向上に努めた。

12月には研究の中間発表を行い、本校の実践を発信し、参観者に評価してもらう機会をつくる。

(2) 人事考課制度を活用した自己申告時の授業

授業力向上のため、管理職による直接の指導を効果的に行うために、年間3回の自己申告時の授業を以下のように位置付けた。

- ・当初申告：算数・・・課題解決的な学習（問題把握、めあての設定、解決の見通し、自力解決、交流、一般化、適用問題）
- ・中間申告：体育・・・発問の簡潔性 道具 安全面の配慮 運動量等
- ・最終申告：自己の専門性のある教科・・・通年でそれぞれの専門性を高めたい教科を校内外で行う。

共通の教科や指導のポイントを明確化することで、学年内で指導法の共通理解を図り、共通実践ができるようにする。

(3) 学校全体として、学力向上に向けた組織的な取組

子供たちの学力向上のために、以下のことを全教員の共通理解のもと実施するようにした。

- ・毎週3回、朝時間に行う全校児童一斉朝読書の確保
- ・学習指導部から提案する、家庭学習の充実
- ・ICTを活用した授業改善
- ・校内OJT年間計画に基づく、若手教員の人材育成

3 「令和8年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・授業改善の視点を、個別最適な学びと協働的な学びの一体化の実現と位置付け、日々の授業改善により、国語科と算数科の墨田区学習状況調査の結果を全国と比較して5ポイント上回ることを目指す。
- ・校内研究の研究主題を支えるための手だてである①言語活動の充実と②交流活動の充実を、各教科で行うことにより、育てたい資質・能力を効果的に育むことができるようにする。